

# 報 告 書

総務教育常任委員会は、令和6年11月12日（火）に、県内視察調査を実施しましたので、その概要を別紙のとおり報告します。

令和7年1月7日

福井県議会議長  
宮本 俊 様

総務教育常任委員会  
委員長 小堀 友廣

## 総務教育常任委員会 県内視察 調査概要

- 1 視察年月日 令和6年11月12日(火) (日程詳細は、別紙のとおり)
- 2 出席者 別紙「総務教育常任委員会 県内視察調査出席者名簿」のとおり

### 3 視察先及びその概要

#### (1) 合同会社菅浜わくわく協働体(三方郡美浜町)

浜野代表社員のあいさつの後、資料に基づき概要説明を受け、質疑応答を行った。

##### ○「集落活性化に向けた取組と成果について」

|                   |       |    |    |   |
|-------------------|-------|----|----|---|
| 説明者：合同会社菅浜わくわく協働体 | 代表社員  | 浜野 | 健治 | 様 |
|                   | 副代表社員 | 榎本 | 強  | 様 |
|                   | 執行役員  | 彦惣 | 弘明 | 様 |
|                   | 執行役員  | 吉本 | 健造 | 様 |

#### (2) 福井県立若狭高等学校(小浜市)

橋本校長のあいさつの後、資料に基づき概要説明を受け、若竹寮の視察を行った。  
その後、地域みらい留学生との意見交換会を行った。

##### ○「地域みらい留学の現状と成果および今後の課題について」

説明者：若狭高等学校 校長 橋本 有司 様

### 4 質疑概要

別紙のとおり

## 総務教育常任委員会 県内視察調査日程表

実施日 令和6年11月12日(火)

| 時 間                     | 行 程   |
|-------------------------|---|
| 8 : 3 0                 | 議事堂 発 (バス)  |
| 1 0 : 0 0<br>( 9 0 分)   | <b>菅浜わくわく協働体 (菅浜わくわくかん) 着</b><br>(所在地) 三方郡美浜町菅浜 100-48-1<br>(電 話) 0770-37-3568<br>○概要説明<br>「集落活性化に向けた取組と成果について」<br>○質疑応答<br>○現場視察   |
| 1 1 : 3 0               | 同地 発  |
| 1 2 : 0 0               | 昼食 (若狭町内)   |
| 1 3 : 0 0               | 同地 発  |
| 1 3 : 3 0<br>( 1 5 0 分) | <b>福井県立若狭高等学校 着</b><br>(所在地) 小浜市千種 1-6-13<br>(電 話) 0770 - 52 - 0007<br>○概要説明<br>「地域みらい留学の現状と成果および今後の課題<br>について」<br>○質疑応答<br>○若竹寮視察 (14:50~15:10)<br>○地域みらい留学生との意見交換 (15:20~15:50) |
| 1 6 : 0 0               | 同地 発  |
| 1 7 : 4 0               | 議事堂 着 (解散)  |

# 総務教育常任委員会 県内視察調査出席者名簿

| 【派遣委員】 | (氏 名)   | (期別)     |
|--------|---------|----------|
| 委員 長   | 小 堀 友 廣 | 3期       |
| 副委員 長  | 兼 井 大   | 2期       |
| 委 員    | 田 村 康 夫 | 6期       |
| //     | 西 本 正 俊 | 5期       |
| //     | 野 田 哲 生 | 2期       |
| //     | 酒 井 秀 和 | 1期       |
| //     | 藤 本 一 希 | 1期       |
|        |         | (委員計 7名) |

## 【地係議員】

合同会社菅浜わくわく協働体関係

福井県立若狭高等学校関係

小浜市三方郡三方上中郡選挙区

松崎 雄城 2期

## 【議 会 局】

議事調査課 主任 大久保 由美

// 主任 山本 紘一郎

# 質 疑 概 要

## 1. 合同会社菅浜わくわく協働体

### (1) 説明要旨

#### ○設立の経緯について

- ・菅浜地区は昭和元年の大火で120戸中10戸くらいを残して全焼した。その後、3年で復興できた。それは、この地区の人々が昔から持ってきた「結」という助け合いの気持ち、協働で何かをしようとする気質が影響している。それが今も脈々と続いており、この協働体の成功につながっている。
- ・人口が400人を切り、高齢化率も45%に接近し、保育所や小学校がなくなった。この状況を何とかしなければと、この4人を中心として法人をつくった。
- ・法人の出資者は27人いる。70歳前後の住人が結束して、2018年に美浜町の「再生エネルギー地域プロジェクト」に参画し、年間8回のワークショップを重ねて菅浜の強み、弱みを徹底的に討議した。
- ・行政が業務を集約して人員を削減するために、行政の役割がどんどん地域に下りてきた。業務をこなすのが大変なので、全部協働体で引き受けて、各担当で分担しようというのも法人設立の背景にある。
- ・区民全員参加の協働体をつくろうということで、2022年10月に合同会社菅浜わくわく協働体を設立した。

#### ○取組内容について

- ・お金をどういうふうに地域で回すかということになり、物販をやることになった。この建物はもともと保育所であったが、ぼろぼろの空き家となっていた。県の新ふるさと茶屋事業を活用して、県と町からそれぞれ1,500万円ずつ補助をもらい、外装の改装をした。内装や絵はほとんど住民の手作業で完成させた。
- ・この活動のコンセプトは、地域人材活用・地産地消・地区内資金循環である。
- ・補助金をもらうための資料は膨大で作成するのが大変だが、事務局長は長年事務の仕事をしてきたこともあり、補助金申請等の事務作業を全部やってくれた。役所に提出する資料を作成できる人材がいないと運営はなかなか難しい。
- ・地産地消のため、ハーブやレモンは全てピザに活用している。タコなどの水産物もピザに活用。
- ・地域にあるものは地域から手に入れ、ないものは買う。買う場合は生協から仕入れ、地域にお金が落ちるようにしている。人にも地域の店にもお金が循環する仕組みになっている。
- ・菅浜の保有田は43ヘクタール、耕作地は35ヘクタールある。そのうち、27ヘクタールが棚田である。担い手を中心に田を保有する全員で菅浜の財産を守る保全活動を実施し、補助金をもらっている。作業は、田の保有に関係なく住民みんなで行う。来てもらった人には時間当たり1,000円分の地域券(買物券)を支払う。
- ・地域内外の世代間交流を進めるため、ウェルカム食堂をやっている。毎月100食ぐらい準備して、ワンコインで食事会をしている。子どもから高齢者まで参加する。高齢者の生存確認にもなっている。

- ・当施設ではカフェのほかキッズルームを整備しており、保育士を雇っているが、年収 103 万円の壁にぶち当たっている。キッズルームは定員 10 名で預かりの時間は決まっていないため、保育士を複数人雇わないといけないが、103 万円の壁があるのでワークシェアで人を回さなければならない。この点は、先日鷲頭副知事が来られたときにも何とかしてほしいとお願いした。
- ・ハーブ・レモン園、畑の草刈りに 20 人以上のお年寄りが参加してくれている。わずかではあるがお礼として生協の地域券(買物券)等を支払っている。また、お年寄りが露地栽培で作った野菜が無駄にならないように、ピザの材料に加えたり地産品販売コーナーで売ることにより現金が入るので、野菜作りの意欲アップにつながっている。
- ・昨年の予算決算特別委員会での兼井議員の質問の際、杉本知事がこの協働体のことを取り上げ、先行的なモデルとして紹介してくれた。

## (2) 質疑概要

○委員　すばらしいコンセプトのもとに進められているが、市町などは特にそうだが、こういった活動にはコンサルタントが入って、金太郎飴のように似たり寄ったりの感が強い。ここはそのようなモデルというか、参考にしたものはあったのか。

○代表　参考にしたモデルはある。ワークショップを重ねる段階で、日本総研から提出されたモデルを参考にした。それを自分たちで1年かけて菅浜に合った内容にした。

○委員　取組も住民のコミュニケーションもすごいと思うが、宿泊できるところはあるのか。

○代表　民宿は4軒くらいある。海水浴が最盛期だった頃は40軒くらいあったが、今は4軒である。ただそれはフリーの客向けではなくて、原子力のメンテナンスで来る人の定宿となっている。フリーで飛び込みの宿泊は無駄が多いのでやっていない。企業と契約した定泊のみである。

○委員　自分も地元でふるさと茶屋の支援事業をやらないかと提案しているのだが、地元の方は高齢者ということもあり、事業の要綱の中にある「20年間維持する」のが難しいということで、事業に取り組むことに二の足を踏んでいる状況である。菅浜地区は高齢化率も45%に接近しているということで、将来的な後継者、人材をどのように考えておられるか。

○代表　合同会社として出資している人が27人、賛助会員数人でやっている。自分は今年80歳だが、次の世代は数人いる。その次の世代もいないことはない。集団で協働することによって、人材は確保できるのではないかと考えている。取組を4つの部門に分けているが、各部門において後継者を育成していく必要があると考えている。ただ、今人手不足で75歳まで雇用延長されている場合もある。

今までなら 60 歳ぐらいで地域の活動に入ってもらえたものが、今は入ってもらえない。そうすると活動を土日にするとか、早期に年間スケジュールを示すといったことが必要になってくる。

○委員 キッズルームの一時預かりを利用している子どもは何人ぐらいいるのか。

○代表 昨年は 1 日 3～4 人だったが今は 7～8 人で、多いときは 10 人ぐらいになる。美浜町と若狭町が多いが、敦賀市から来られることもある。買物や通院の 1、2 時間でも利用可能としている。丸一日の利用よりも短時間の利用が多い。1 時間でも利用できるため、その分保育士の確保が難しい。規模が大きい施設と一律の預かり料では運営は厳しい。規模や地域の特性も見て決めてほしい。

○委員 最初事業を立ち上げる際に、住民からいろいろな意見もあったと思う。反対する意見もあったのか。当初苦労した点なども教えていただいて、地元提案するときの助けにしたい。

○代表 心配からだと思うが、最初は批判もあった。それが継続するとともに羨ましがるようになった。継続することで反対の意見はなくなる。例えば草刈りをするので 1,000 円分の地域券がもらえるので若い人の参加も増えているし、ツリーハウスは無料で遊べるので、休日に親子で利用する人も多い。

○委員 自分もこういう暮らしに憧れるが、草刈りに来ていただいたら 1,000 円を支払うとか、いろいろと経費がかかっていると思う。経営のことも考えるとカフェなどもなかなか厳しいと思う。人件費も含めて運営はどのように回しているのか。

○代表 自分は数字に強いので、経営には非常に厳しい。もうけた利益を次の投資に回す企業の意識と、天からもらったお金を予算消化のため単年度で使い切る行政の感覚は全然違う。長い企業経験を経て今に至っているのも、原価等についても厳しく指導しているつもりである。全体を見て事務局長や店長に給料は払っているが、時間外労働の手当までは払えないのでその部分はボランティアである。

### (3) 現地視察

- ・同法人が運営するレモン園とハーブ園、棚田を視察
- (※) 視察をしながら行った質疑応答については省略する。

## 2. 福井県立若狭高等学校

### (1) 説明要旨

#### ○若狭高校の概要

- ・若狭高校では、平成5年度までの45年間に渡って「縦割りホームルーム制」を採用してきた。これは学年・学科の枠を超えて、授業以外の全ての教育活動や行事をホームで行うものであり、全国的にも珍しいものであった。今はなくなったが、学校行事の中にこの名残が残っている。
- ・若狭高校の教育目標は、「異質なものに対する理解と寛容の精神」を養い、教養豊かな社会人の育成を目指す、というものである。全日制が普通科、国際探究科、理数探究科、海洋科学科の4つの科で構成されており、多様な進路に対応している。高浜町から敦賀の一部といった、嶺南の幅広い地域から生徒が集まっている。生徒数は800人ほどである。
- ・生徒のほぼ9割が大学進学をしている。文理探究科は難関大学もしくは医学部に進学する生徒が多い。文理探究科はほぼ100%で大学進学している。
- ・若狭高校と小浜水産高校の統合によって、海洋科学科を設置した経緯がある。海洋科学科では昨年までの3年間、マイスターハイスクールとして水産人材を育成しようということで文部科学省から指定を受け、カリキュラムを開発してきた。小型実習船雲龍丸を活用し、地域連携にも力を入れている。
- ・探究学習を教育の中心に据えている。2011年からSSH(スーパーサイエンスハイスクール)に指定されており、今年度から第3期のSSHがスタートしたところである。2012年には県内で他校に先駆けて文理探究科を設置した。地域資源を活用した探究学習を行っており、近年の流れからデータサイエンスなども活用している。1年生では、嶺南4市町の自治体にも協力してもらって地域課題を把握し、1年間かけてともに課題解決を探っていく。
- ・探究活動グループに一人ずつ担当教員を配置し、丁寧に指導しながら探究を行っている。最終的には、SSH発表会で成果発表を行う。
- ・生徒は好きな題材をテーマにして取り組んでいる。海洋科学科のサバ缶が宇宙食になったことも、小浜水産高校時代から挑戦すること14年、300名を超える生徒の継続研究が結実したものである。サバ缶に続き、フナ缶やサワラ缶にも取り組んだ。
- ・探究の成果は、福井県理数グランプリで最優秀賞や優秀賞などの評価として目に見えており、SSH評価としても令和2年に最高評価をいただいている。
- ・探究学習における異校種連携を推進しており、小中高大の接続、海洋教育カリキュラムの普及・開発にも取り組んでいる。
- ・フィリピンや台湾の高校と共同研究を実施している。コロナの影響でしばらくはオンラインが中心だったが、今年は本校に足を運んでもらうことができた。

#### ○地域みらい留学の成果と課題

- ・地域みらい留学とは、地域・教育魅力化プラットフォーム(本部：島根県)が開発するプログラムであり、人口減少に大きな影響を及ぼす地域の高校存続課題に対して、全国から生徒募集を通じて支援する取組のことである。

- ・ 広報活動や説明会の開催等は地域みらい留学プラットフォームが行う。プラットフォームへの参画金は令和6年度までは年間88万円であるが、令和7年度以降は増額する見込みである。これについては県教育委員会に負担してもらっている。
- ・ 全国の参画校は現時点で145校、参加人数は816人である。本県では若狭高校と丸岡高校の2校が実施しており、令和7年度から新たに勝山高校にて募集開始予定ということである。
- ・ 令和5年度の地域みらい留学で、本校には5名の生徒が入学した。若狭地域の生徒の多様な価値観の育成、助け合いや思いやりを持ったコミュニケーション能力の育成、クリエイター人材の育成、若狭地域の活性化を目的として導入している。
- ・ 地域みらい留学で入学した生徒は、2年間で合計11名である。全国各地から入学した。生徒たちは地域にどんどん出て行き、祭りなどにも参加している。昨年8月に若竹寮が開寮し、快適な寮生活が可能となった。
- ・ 生徒たちは探究活動や理数グランプリ優秀賞受賞、小浜市長表敬訪問、加斗小学校への出前授業など、積極的に活動している。本校は雲龍丸を所有しているため、体験乗船のほか操縦にも挑戦し、都会では味わえない学生生活を過ごしている。
- ・ 小浜市サポーター制度があり、サポーターとなっている小浜市内の施設や商店で割引等のサービスを受けられるなど、地域で地域みらい留學生のサポートをいただいている。
- ・ 東京で合同説明会を実施したが、生徒自身が地域みらい留學生の先輩として若狭高校の魅力を紹介した。来年度の入試に向けて、オープンスクールに来てくれた人は23名、オンラインで説明を聞いてくれた人は22名、それ以外で来校した人は10名、合同説明会を含め合計74名となっている。
- ・ 地域みらい留学の成果としては、地元生が新たな価値観や文化に触れる機会となっている。意欲の高い生徒から刺激を受けたり、地域の課題解決に多様な価値観で考えられるようになる。また、学校の魅力化を促進させたり、地域の活性化、UターンやIターンにつながることを期待される。
- ・ 課題としては、若竹寮の収容能力の限界がある。昔の若竹寮では入寮者数が毎年5～6人だったが、嶺北の生徒や海洋科学科に入りたい生徒が入寮し、現在、地域みらい留學生を含め27名の生徒が入寮している(収容人数は最大で30名)。来年度、地域みらい留学でまた6名の生徒が入寮する見込みであるため、3名の生徒は1年間限定ということで入寮を許可しているという状況である。
- ・ その他の課題として、他地区参画校との待遇面の違い(学校見学や帰省に対する交通費補助、自治体による公設塾の設置支援、コーディネーターの配置など)、倍率が高くて入学できない生徒の進路保証、寮母や舎監の確保がある。旧寮のときと変わらず寮母3名、舎監5名であるが、入寮者が27名になったので運営が大変である。寮母は早朝から27名分の朝食と弁当を作ってくれている。

## (2) 質疑概要

- 議員 先ほど述べられた課題の中で公設塾の設置支援など、他地区参画校と

の待遇面の違いがあったが、始まった時期によって他県との差が生じているのかなと思ったのだが、地域みらい留学プラットフォームが全国で始まったのはいつ頃からか。

○校長 2018年開始で6年間の活動であると認識している。公設塾等の地域の応援がある高校は、それを説明会で売りにしている。かなり地域性がある。

○議員 島根県の財政規模は福井県とそんなに変わらないと思うが、島根県でいろいろ応援しているとなると福井県ではどうだという話になるかなと思った。

○委員 島根県立隠岐島前高校はよく話題になるが、あれも関係しているのか。

○校長 島根県はかなり参画校が多く、隠岐島前高校も地域みらい留学参画校である。かなりの倍率であるので、地域みらい留学ではなく、わざわざ隠岐の島に移住して入学する生徒もいるくらいである。

○委員 若竹寮の整備は県が行ったわけであるが、収容人数が限界にきているという話があった。本当は何名ぐらいで考えた方がよいのか。今後それを解消するためにどのような手法があるのか教えてほしい。

○校長 古い寮は10名前後の入寮者数だったので、見込みが難しいというのが正直なところである。地域みらい留学が始まったことから、受験してくれば必ず6名は入ってくるので、3学年そろえば18名は入る。残り12名が地域の生徒ということになる。今までは高浜の内浦や三方の常神のほうの生徒が入っていたが、年回りにもよるので、本当は30名ぐらいが適正なのかなというところではあった。収容人数が大きくなれば入寮したい生徒もたくさん出てくるとは思うのだが、その年の事情にもよるので明確なことは言えない。現状で部屋を増やすということは難しいので、対応できるとすれば解体が予定されている旧若竹寮をリフレッシュするとか、身元引受人の問題はあるが地域のアパートを安く借り上げるとかだと思う。

○委員 保護者と学校とのコミュニケーションはどうやって取っているか。

○校長 電話である。寮で何かあれば舎監が保護者の自宅に連絡をする。

○委員 保護者が学校のほうに来られることはあるのか。

○舎監長 野球部に入っている生徒の保護者が試合を見に来ることもあるし、学校近辺に親族がいる保護者が様子を見に来ることはある。

○委員 舎監は24時間365日常駐しているのか。

○舎監長 夕方の5時から翌朝8時過ぎぐらいまでが勤務時間となっている。平日の昼間は寮母がいる。舎監は土・日の夜も常駐している。

○委員 卒業生全体の話だが、京都の大学に進学する生徒が非常に多い。どのくらいの生徒が福井県に戻ってきているか。

○校長 おそらく2割ぐらいだと思う。

○委員 大学進学時に県外に出てしまうと福井に戻ってこない場合が多いので、地域みらい留学で福井の学生が県外へ行って、大学もしくは就職で福井に戻ってくるような、早めに県外に出て就職は福井でという仕組みにならないかと感じている。企業がないという問題はあるのだが。

○校長 特にこの地域だと、大学は福井県立大学の小浜キャンパスしかない。どこに進学するにしろ下宿しなければならない。福井よりも京都のほうが近いから、どうしても関西方面に進学する者が多くなる。

○委員 地域みらい留学生の中で、進路で福井在住を検討する生徒もいるのか。

○校長 普通科や探究科は大学進学を希望する者が多いと思うが、海洋科学科の生徒は海などに魅力を感じて、福井のほうに住むということもあるかもしれない。進路指導は2年生の後半から始まるので、今後そういったところで話が出てくると思う。

○委員 海洋科学科から福井県立大学の海洋生物資源学部に進学するコースはなかったか。

○校長 専門卒の推薦がある。毎年5～10名ぐらい進学している。

### (3) 若竹寮視察

(※) 視察をしながら行った質疑応答については省略する。

### (4) 地域みらい留学生との意見交換

《参加生徒：5名》

○委員 福井県に来てよかった点と残念な点があれば教えてほしい。

○生徒 野球をする環境が整っている印象である。

○生徒 地元が都会で緑が少なかったのだが、小浜は山や海があってたくさん自然に囲まれて生活しているので、毎日とても充実している。困っている点があるとすれば、電車賃が高いということ。部活帰りなどで2時間に1本の運行頻

度だと待ち時間がつらい。

○委員 若狭高校に進学したいと思ったきっかけを教えてください。

○生徒 学校から地域みらい留学のプリントが配付されて興味を持った。若狭高校は探究に力を入れていたし、大学の進学率が高かったのでいいなと思った。両親や先生、友達など周りからはすごく反対されたが、実力をつけて納得してもらった。東京の説明会で先輩が対応してくれたがすごくかっこよかった。私は若狭高校に入学するために勉強するんだという気持ちで、中学3年生のときは頑張っていた。

○生徒 SNSで地域みらい留学のことを知った。自分に合う学校を探していたら若狭高校にたどり着いた。両親は放任主義なので何も言わなかった。

○生徒 地方で生活してみたいと思っていたし、勉強や進学も両立できるというところで選んだ。

○生徒 自分はまず海のことに関心があって、そういった勉強ができる学校を探したら若狭高校が出てきた。野球もそれなりに練習できるし、将来も海に関わる仕事がしたいので、若狭高校に進学した。

○生徒 自分も住んでいる場所以外で生活してみたいと思っていたし、大学の進学も考えて若狭高校を選んだ。

○委員 高校時代に親元を離れ、自立していて素晴らしいと思う。将来の明確な目標があれば教えてください。

○生徒 将来的に水産の教師になりたいと考えている。大学も水産系の学部に行きたい。

○生徒 理系の大学に進学したいと考えていて、宇宙生物学の研究者になりたいと思っている。

○生徒 今のところ決めていないが、将来はたくさんお金を稼いでおいしいものもいっぱい食べられて、自分の趣味がたくさんできるといいなと思う。

○生徒 母親が化学メーカーに勤めているのだが、化粧品関係の方と話す機会がよくあるらしい。化粧品がすごく好きなので、大好きな英語を使った化粧品関係の仕事に就きたい。高校生でできることをたくさん学んで積み上げていきたい。

○議員 地域みらい留学を実施している学校の中でも、若狭高校の進学率が断トツに高かったのか。

○生徒　　そうである。地域みらい留学を実施している学校は毎年定員割れをしているところが多く、必然的に偏差値は30~40で、50あるところも少ない。

○生徒　　自分の場合は、海洋関係の学科が若狭高校以外になかった。

○生徒　　将来的にできるだけ偏差値が高いところがいいと考えた。偏差値が50以上あるところがよかった。

○議員　　もし地元の高校を受験していたら、同じぐらいの偏差値の高校を目指していたか。

○生徒　　若狭高校よりは偏差値がちょっと高めの学校を目指していたが、自分のやりたいこととの両立を考えたときに、地域みらい留学の中で妥協できる偏差値だったのが若狭高校だった。

○委員　　方言も含めて、福井のクラスメートに対するイメージを教えてほしい。

○生徒　　なまりがきつい感じはしない。関西弁といっても大阪ほどでもない。おらかな印象を受ける。

○生徒　　野球部でもクラスでも最初から歓迎されている感じが強かったので、なじみやすかった。言葉なども違和感を覚えなかった。

○生徒　　最初は同じ地域出身の人のまとまりが強いイメージがあったが、すぐに内側に受け入れてくれた。

○生徒　　方言がちょっと関西寄りで、言葉によっては意味が分からないものもあった。小浜の人は優しくて温かくてありがたいと思う。

○委員　　来年は勝山高校でも地域みらい留学が取り入れられる。福井で地域みらい留学が始まって2年目だが、学校生活や寮生活も含めて、もっとこういうふうにしたらいいのにと思っていることがあれば教えてほしい。

○生徒　　小浜市サポーター制度はありがたいが、加盟店が合格者登校日にももらったチラシ1枚にしか記載がなくて、毎回確認するのが大変。更新されると情報が分からない。スマホで見られるようにしてほしい。

○生徒　　出願のときトラブルがあった。インターネットと郵送が教育委員会から言われていたことと学校から言われていたこととでミスがあって、期限内に出願できなくなった。難しくて誰に聞いても分からないみたいな感じのことがたくさんあった。インターネット上に古い書類とか古いバージョンのものが残ってい

たら分からなくなるので、更新したら古いものは削除してほしい。来年入学する人には同じような対応をしてほしくないので、改善してほしい。

○生徒 学校説明会でもよく言われているのだが、出願方法が分からない。最初教育委員会に電話したら学校に聞いてほしいと言われてたり、電話しても地域みらい留学の担当がいなかったりということがあった。ここに聞けば全部分かるとか、これを見れば全部分かるみたいになるともっと親切かなと思う。

○高校教育課 昨年どういう対応をしたのか持ち帰り確認する。

○委員 午前中の視察先でも、役所の書類関係で古いものとかあって分かりにくいといった話もあって、皆さんも同じような経験をされているということなので、しっかり対応できるように頑張りたい。

○委員 ぜひ福井に残っていただきたいと思うが、将来はどこで働こうと思っているか。

○生徒 都会と福井の両方に住んでみて、それぞれのいいところも悪いところも分かったので、栃木とか群馬といった、都会と田舎の中間地点になるような場所に住みたいと思う。福井県は、嶺北はまだ公共交通機関が結構あっていいかもしれないが、嶺南は一生住むには不便かなと思う。

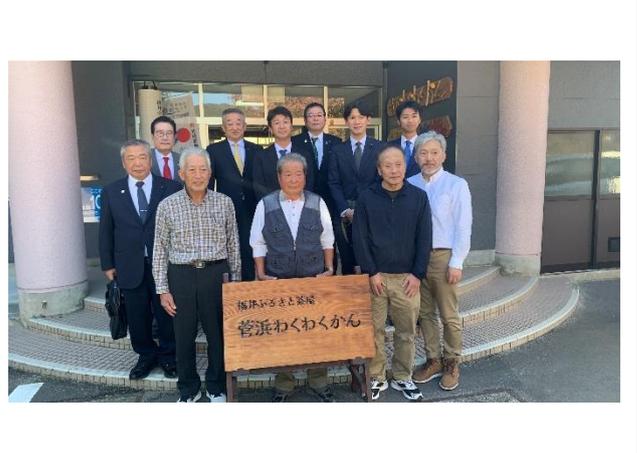
○生徒 大学とかはまだ迷っているが、福井県に残るなら小浜市付近に住むと思う。実家には帰らないと思う。水産の教師を目指したいが、教師になると転勤もあるのでどこに住むことになるのか分からない。

○生徒 もともと都会のそれなりに便利なところに住んでいたのですが、田舎で大丈夫かなと思っていたが、全く問題なく快適に暮らしているので、自分はどこでも生きていけると思っている。やりたいことがある場所で働ければいいなと思っている。

○生徒 出身地も田舎なので田舎暮らししかしていないのだが、都会は物価が高いイメージがある。最低賃金がちょっとだけ高く、物価が安い中間地点に住みたい。

○生徒 海外の方と積極的に仕事で関わりたいので、東京が現実的かなと思う。

# 総務教育常任委員会県内視察（合同会社菅浜わくわく協働体）



# 総務教育常任委員会県内視察（若狭高等学校）

